「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム事業
令和5年度　活動報告

「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会では、美術館、図書館と地域の子育て支援団体、就労支援団体が連携し、あかちゃん、子どもから大人まで、あらゆる世代が気軽に楽しく文化芸術に触れることができる場づくりを進めています。令和５年度は、昨年度のアクセシビリティーを高めるための聞き取り調査や実践から得た学びを発展させ、新たに外部の有識者や団体からの協力を得て、鑑賞会やワークショップ、講演会、動画制作を通じ、より多様な方々に向けた、アートを楽しく「みる・よむ・体験する」機会の創出に努めました。この報告書をご覧になり、ぜひお気軽に美術館、図書館にお出かけください。みなさまの心安らぐ居場所となり、参考となることがあれば幸いです。

「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム実行委員会規約（抜粋）

目的： 地域とともにある美術館と図書館、地域の子育て・就労支援団体が共働し、それぞれのネットワークと各施設が持つ場所を最大限に活用しながら、地域の文化振興と社会教育、生涯学習支援の更なる充実を目指す。

事業：
1. 美術館を中心とする鑑賞促進活動。
2. 図書館を中心とする読書推進活動。
3. 地域への社会貢献を目的とする体験の普及。
4. その他、目的の達成に必要な活動。

文化庁　令和５年度　Innovate MUSEUM事業

インクルーシブな環境づくりに向けた学びと、プログラムの開催

多様な方々と文化芸術体験の機会を共有し、ともに楽しみながら、学びを深めるために、インクルーシブデザインについて学んだ後、いくつかのプログラムを行ないました。

●インクルーシブデザインについての講義の受講と、ワークショップ

2023年7月12日（水）・9月22日（金）@ちひろ美術館・東京
12月4日（月）@練馬区立石神井図書館
対象：ねりまフォーラムメンバー　参加者数：15名
講師：山田小百合（特定非営利活動法人Collable代表理事）

インクルーシブデザインとはなにか？ということを理解するために、インクルーシブデザインを専門に活動している山田氏を講師に迎え、3つのグループに分かれていくつかのワークを行い、インクルーシブデザインの考え方について話し合いながら学びました。
次に、美術館、図書館、それぞれを会場に、テーマを決めて、リードユーザーと呼ばれる、あまり足を運んでもらえない方々を迎えて彼らの意見を聞きながら館内外をめぐりました。ちひろ美術館では、「ファーストミュージアムとは何か」というテーマで、車椅子ユーザーの方、視覚障がいのある方、そして外国語を母語とする親子をリードユーザーに迎え、それぞれのグループに分かれて、館の外から展示室内までを一緒にめぐり、気づきを共有しました。石神井図書館では「ディスレクシアの方々への読者支援」をテーマに、ディスレクシア（文字の読み書きに困難がある学習障がい）のある方や、その保護者と、図書館内で、本を手にとりながら、意見を交わしました。

●障がいのある方のための鑑賞会

2023年11月27日（月）　@ちひろ美術館・東京　協力：アート・コミュニケータ東京
対象：身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳などをお持ちの方とその介添えの方（1名まで）　参加者数：計10組

美術館の休館日に、障がいのある方と介添えの方を対象にした、特別な鑑賞会を行いました。ちひろ美術館、初めての試みとなる鑑賞会に、6歳から70代まで幅広い年齢の方たちが参加しました。サポート経験が豊富なアート・コミュニケータ東京の方々と事前打合せを何度も行い、彼らが参加者の方々とそれぞれコミュニケーションをとりながら、展示を楽しみました。

参加者の声
担当の方と話しながらより深く絵を鑑賞できて楽しめた。絵本を皆で読む機会もあり、ちひろのやさしく強い絵に励まされた。

●アートリップ（認知症の方に向けた対話型アート鑑賞プログラム）

2023年10月27日（金）　@ちひろ美術館・東京　対象：認知症の方とそのご家族や介護の方
講師：林容子（アーツアライブ代表）　協力：一般社団法人アーツアライブ
参加者数：4名とそのご家族

高齢化が進むなかで、アートや美術館に新たな可能性が期待されています。作品への案内役の講師に導かれ、参加者は座ったまま、作品を見、対話を重ね、いきいきとした表情を見せていました。本プログラムは、繰り返し行うことで、うつやBPSD（行動心理障がい）の改善に効果が認められているそうです。

担当者のつぶやき　チラシ、SNS、などで地域の包括支援センターを始め、広範囲に広報して、次の機会につなげました。

●手話通訳つきギャラリートーク

2023年 12月9日（土）@練馬区立美術館／ 12月16日（土）@ちひろ美術館・東京
手話通訳者：和田みさ、永井珠央　対象：手話を主要なコミュニケーション手段とする方（ろう者、難聴者、中途失聴者など）のほか、どなたでも。
参加者数：練馬区立美術館19名／ちひろ美術館16名

美術館での経験が豊富な手話通訳者とともに、練馬区立美術館とちひろ美術館でのギャラリートークを開催しました。告知方法から、当日のトーク担当の立つ位置まで、学ぶことが多くありました。練馬区立美術館では久々の手話付きトークの開催、ちひろ美術館では初めての試みでした。

参加者の声　どれも素敵な作品ばかりでしたので解説や手話通訳が付くことで分かりやすく、絵本の世界に引き込まれました。また機会があれば参加したいと思います。

●目の見えない白鳥さんといっしょにちひろの絵を楽しもう

2024年1月8日（日）　@ちひろ美術館・東京　対象：大人の方
講師：白鳥建二（全盲の美術鑑賞家、写真家）　参加者数：AM4名　PM5名

昨年初めて開催し、開催側も学びの多かった鑑賞会を今回は開催回を2回にして行いました。アーティストとしても活躍中の白鳥さんと、ともに絵を見る楽しさが実感できました。

地域の子ども、若者、親子とともに

ねりまフォーラムでは今までも地域のあかちゃんから大人まで、ともに居心地のよい場をつくるよう努めてきました。続けて行っていることや、新たに工夫したことをご紹介します。

●あかちゃんのための鑑賞会／子どものための鑑賞会

2023年9月16日（土）／9月23日（土）　@ちひろ美術館・東京
対象：0～2歳児／3～6歳児とその親/（それぞれ外国語を母語とする家族を含む）
講師：冨田めぐみ（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表）
参加者数：22名／ 26名

絵を美術館で見て楽しむことは、大人だけのものではありません。まだ話すことのできないあかちゃんから、美術館に初めてくる子どもまで、親も子も、リラックスしたり新たな発見があったり、参加者同志のコミュニケーションも含め、あっという間の時間でした。

●ワークショップ　あなたの「好き」をつくろう、えがこう！

2023年11月26日（日）　@ちひろ美術館・東京
対象：外国から来日したお子さん（3歳～小学生）と保護者（日本の親子の方も可）
講師：冨田めぐみ（NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表）
参加者数：親子4組

用意されたさまざまな材料や持参した素材を使って、自分の好きなものをつくったり、描いたりしました。参加したのは、中国、韓国、台湾をルーツとしたご家族と日本のご家族。講師より、自由表現から見えてくる子どもたちの成長、親子の関わり方についての話もありました。

参加者の声　忙しい生活のなかで、いい親子のイベントになりました。

●親子で楽しむイベントガイドの作成

ねりまフォーラムメンバーの美術館、図書館、子育て支援団体が開催している秋の子どもと親子向けイベント情報を掲載したチラシを作成し、練馬区内の図書館や子育て施設へ配布しました。

講演会「谷内こうたの世界 －風と光と音の詩人－」

2023年9月3日（日）　対象：どなたでも　講師：松本猛（ちひろ美術館常任顧問）
参加者数：@石神井図書館 26名　貫井図書館 13名　南田中図書館 4名

対談　村上康成・はたこうしろう　いま、絵本でつたえたいこと

2023年10月8日(日)　対象：どなたでも　講師：村上康成、はたこうしろう
参加者数：@石神井図書館 28名　貫井図書館 23名　南田中図書館 17名

図書館と美術館が連携し、開催中の展覧会をより深く味わうための講演会と、出展絵本画家による対談を開催しました。本会場以外でもサテライトで同時上映を見られる他、新たに託児サービスをつけ、子育て中の方も気軽に参加できるようにしました。

出張「子育てのひろば」

2023年9月15日（金）／11月10日（金）　@ちひろ美術館・東京
対象：乳幼児と保護者　参加者数：親子8組

子どもとその保護者が、くつろぎながら、地域で活動する子育てのひろばの職員といっしょに絵本を読んだり、美術鑑賞の感想を述べあったり、日常の悩み事を相談する機会を美術館のなかにつくりました。4年ぶりの開催。

参加者の声　初めて他のあかちゃんやママさんとおしゃべりできました。

美術館カードで絵を楽しもう！

2024年1月6日（土）@南田中図書館／1月20日（土）・21日（日）@練馬区立美術館
対象：児童、幼児とその保護者、一般
参加者数：南田中図書館16名／練馬区立美術館　2日間計86名

練馬区立美術館とちひろ美術館の所蔵品カードを使い、ゲームやワークショップを行いました。ねりま若者サポートステーションに登録している若者たちが事前研修を受け、ワークショップの進行を務めました。練馬区立美術館が、まちで美術を楽しもう！をコンセプトに開催した、アートdeねりまちの「アートマルシェ」の期間は、会場内各所に「やさしい日本語」を使ったポスターを掲示しました。

参加者の声　そうぞう力がゆたかになった気がしました。

アクセシビリティーを高めるツールの制作

プログラムを行っていない時も、美術館の魅力が伝わるように、手話付き動画ガイドを制作しました。

手話付き動画の制作と発信

昨年の聞き取り調査をふまえて、美術館の概要や内容を、聴覚障がいのある方も、そうでない方もいっしょに知ることのできるコンテンツとして、手話付きの、美術館紹介動画を、既存の映像をもとに制作しました。
手話付加映像制作：今井ミカ　株式会社サンドプラス
手話翻訳・監修：那須善子　協力：TOPPAN 株式会社

実行委員会構成団体について

ちひろ美術館・東京　**練馬区立美術館**　**特定非営利活動法人手をつなご**
練馬区立石神井図書館　**練馬区立貫井図書館**　**練馬区立南田中図書館**　**ねりま若者サポートステーション**

企画・制作：「みる・よむ・体験する」ねりまフォーラム事業実行委員会　2024年2月発行